

今日のトピック 米国の債券市場の最近の動向(2014年8月) 景気見通しの下振れなどから、利回りは低下

ポイント1

米国債利回りは、7月以降、低下傾向

景気見通しの下振れなどが要因

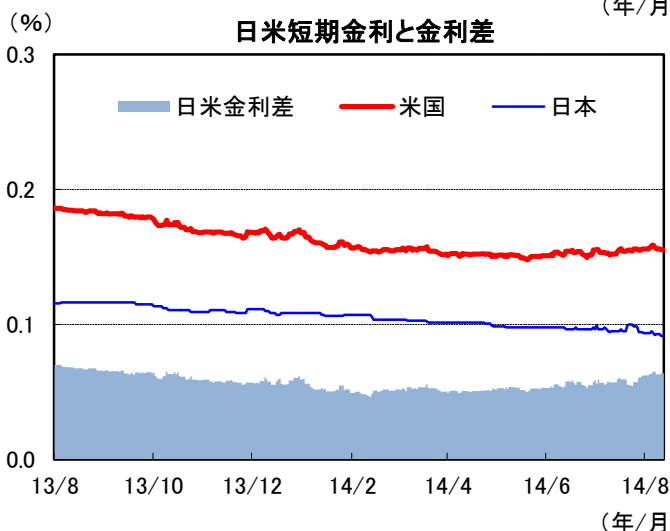
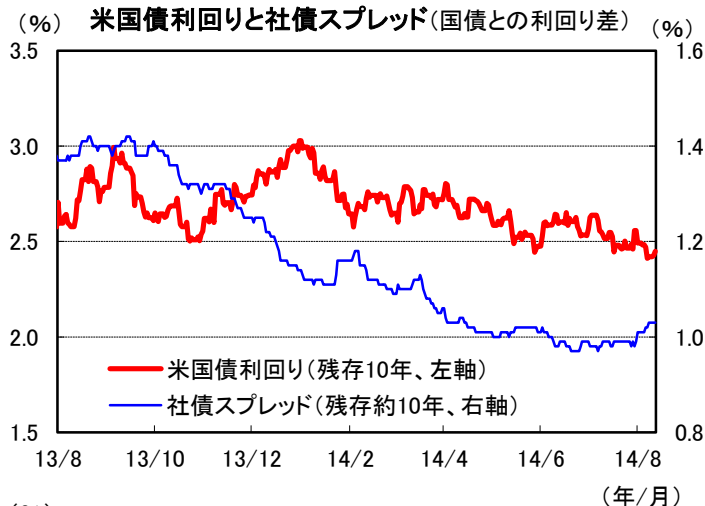
- 7月中旬以降、米国では良好な企業景況感が発表されたものの、雇用環境の改善に一服が見られました。住宅や小売りなどの関連指標が弱かったこともあり、景気見通しが下振れ、米国債利回りの低下要因となりました。また、7月中旬の議会証言でイエレンFRB議長が、現在の低金利政策を相当な期間維持させる旨の発言をし、米国債利回りは低下しました。
- 米国外では、エスピリト・サント銀行を巡る債務不履行問題や、ウクライナ情勢における米欧とロシア間での経済制裁の発表など地政学リスクが高まったことから、米国債利回りは低下しました。

ポイント2

社債スプレッドはやや拡大

日米短期金利差も拡大

- 安定的な金融資本市場の動向や、底堅い企業決算を背景に社債利回りは低下しましたが、米国債利回りの低下幅の方が大きく、社債スプレッド(国債との利回り差)はやや拡大しました。
- 短期金利の動きをロンドン銀行間取引金利(LIBOR)でみると、当面は日米の低金利政策が続くと見られ、低位で安定的に推移しましたが、足元ではやや金利差が拡大しました。短期金利は今後も低水準が見込まれます。



(注1) データは2013年8月1日～2014年8月12日。
(注2) 上段グラフの社債スプレッドはパークレイズ・米国投資適格社債インデックス。
(注3) 下段グラフの日米短期金利はロンドン銀行間取引金利(LIBOR)1ヵ月物。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

債券利回りは緩やかな上昇、社債スプレッドは安定的推移の見込み

- 今年10月にも見込まれるQEの終了後は、物価動向や雇用関連指標が点検され、雇用の「質」の改善が十分となると見られる2015年後半以降に利上げが行われると見込まれます。
- 債券市場では、低金利政策が当面続く見込みから、国債利回りは当面低位で安定すると思われ

ます。ただし、景気回復が進むにつれて、債券利回りには緩やかな上昇圧力がかかりそうです。

- 社債スプレッドは、主要な米国企業の底堅い業績や慎重な財務運営、社債への旺盛な需要などから、今後も安定的に推移すると見込まれます。

ここも チェック!

2014年08月04日【デیلیー No.1,927】米国の雇用統計(2014年7月)

2014年08月01日【デیلیー No.1,926】米国のGDP成長率(2014年4-6月期速報値)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。